令和５年度　愛知医科大学メディカルデータサイエンス教育プログラム　自己点検・評価報告書

点検項目	自己点検・評価
プログラムの履修・修得状況	2023年度においては、医学部は「医療のための情報学」「アカデミックリテラシー」「行動科学１a」「医療のための数学」「選択講座（AIリテラシー入門）」の5科目、看護学部は「情報科学I」「情報科学II」「統計学」の3科目によりプログラムは構成されている。それらは全て1学年次開講の科目である。そのうち「選択講座」は履修を必須としない科目であり、それ以外は全ての科目が必修科目である。ゆえに全ての学生が履修することとなっている。 プログラムの修得状況は、医学部の修了者数は 111名、看護学部の修了者数は 100名であり、医学部と看護学部の修得率はそれぞれ 96% と 97% であった。
学修成果	学習支援システム (Moodle) により各授業ごとの課題提出・フィードバックがなされており、定期的に学習成果の把握ができている。各学部ごとに授業アンケートが実施されている。医学部では「シラバス」「講義内容」「教員の態度」「講義資料」などが評価され、看護学部では「シラバス」「講義の構成・内容」「教材」「評価」などが評価された。両学部とも、アンケート結果は教員へフィードバックされ、授業改善に活用されている。今後は、その結果を教育プログラム委員会と共有することにより、本教育プログラムの改善にも活用していきたい。
学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度	理解度について検証するために、上の科目別のアンケートとは別に、必須項目の「導入」「基礎」「心得」の３つの項目についてアンケート調査を行った。「理解できた」「概ね理解できた」と回答したのは以下のとおりである。医学部については、導入：87%、基礎：87%、心得：89% となった。看護学部については、導入：70%、基礎：77%、心得：83% となった。自由記述のコメントにも、医学部は「理解できた」看護学部は「難しかった」という記載があった。
学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度	本教育プログラムはほぼ必修科目で構成されており、履修に関する推奨については考慮されていない。唯一存在する「選択講座」は年度ごとに公募され開講する講座であるため、こちらも後輩への推奨などは行われていないが、今後データサイエンス系の（選択）講座が充実されれば、後輩への推奨も行われるようになると期待される。
全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況	現在は、必修科目のみで教育プログラムの課程を修得できるようになっている。将来、科目が拡充されて選択科目が増えてきた時にこの問題を検討していきたい。
教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価	初年度の1学年次のプログラムが終了したところである。3年後（看護学部）もしくは5年後（医学部）に就職先（研修先）と共同で卒業生の状況を調査していく。
産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見	教育プログラム評価委員会において、学外委員の方々より産業界の視点を含めた形でご意見をいただいた。「学生が卒業する頃には電子カルテ情報が共有化，標準化されると思われるので，今のうちに情報やAIに関する教育が行われているのはありがたい」「高校で情報を学ぶ授業が必須になっている。データサイエンスに関する基礎を身に付けて入学してくると考えられるが，医療におけるデータサイエンスをどのように教えていくのかが課題となるため，接続性が良くなるとよいのではないか」などの意見があった。次年度以降のプログラムの改善に活用していきたい。
数理・データサイエンス・ＡＩを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること	医学部では、「生成AI」についてグループディスカッションを行い、学生たちにAIを扱うことについての関心を深めることに効果があった。また、地元の企業でデータサイエンスを活用している研究者を招き、講義を行った（行動科学1a）。学生たちはいろいろな事例について興味を持っているようであった。看護学部では、AIを用いた病理診断を示し、学ぶことの意義を理解させている。
内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること	モデルカリキュラムに準拠した教科書を選定し、それを使用することによって、一定水準を維持している。学生アンケートによると、医学部では「理解できた」「概ね理解できた」との回答が85%を超え、看護学部では「理解できた」「概ね理解できた」との回答が75%程度であった。これより「分かりやすさ」についてはある程度満たされているといえる。